

四門会

第28号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言	肥塚 泉	3
会長あいさつ	服部康介	4
医局長あいさつ	齋藤善光	5
新入医局員あいさつ	小森 学	6
	森内 亨	7
退局のご挨拶	藤田聡子	8
	谷口雄一郎	9
大学院生便り	荒井光太郎	10
	稲垣太朗	11
	大原章裕	12
	笹野恭之	13
	西本寛志	14
	望月文博	15
医局報告	医局構成	16
	出張病院および外勤病院	17
専門外来紹介		
頭頸部腫瘍外来	明石愛美	18
嚥下外来	森田 翔	19
喉頭・音声外来	山田善宥	20
副鼻腔・アレルギー外来	稲垣太朗	21
中耳・聴覚外来	堀江怜央	22
めまい外来	大原章裕	23
小児耳鼻咽喉科外来	小森 学	24

関連病院だより

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	瀬尾 徹	25
川崎市立多摩病院	晝間 清	27
済生会川口総合病院	四戸達也	28
東京労災病院	久保佑介	29
独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸	30
秦野赤十字病院	神川文彰	31
横浜総合病院	小野瀬好英	32

国内留学だより

東邦大学医療センター大森病院	川島孝介	33
----------------	------	----

OB通信

新谷敏晴	34
菅野澄雄	36
田中泰彦	39
鳥越達也	40

第24回 四門会総会報告事項	43
第24回 四門会総会議事録	44
第24回 四門会総会 写真	48
外来風景写真	49
聖マリアンナ医科大学 新病院工事写真	50
会則	51
編集後記	54

世界そして医局の現状

肥塚 泉

今年度の巻頭言を書くにあたって、昨年度の巻頭言を読み返してみた。そこには、「この巻頭言を書いている令和2年2月25日現在、新型コロナウイルスのニュースで持ち切りである。先生方がこの巻頭言を読んでおられる頃には、感染の拡大が終息していることを祈るばかりである。」と記している。昨年から今年にかけて、ほとんどの学会は会場とオンライン上の同時開催（Hybrid開催）となった。会議に至っては、オンラインによるものがほとんどとなってしまった。海外で行われる国際学会のほぼすべてが開催中止、あるいは開催延期となってしまった。この巻頭言を書いている令和3年2月12日現在、神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県には、2回目の緊急事態宣言が発令され、感染者の数はやや減少傾向にはあるが、いまだコロナ禍が続いているという状況である。南アフリカや英国では、変異株による感染例も報告され、日本においても変異株例が報告されるようになった。「一寸先は闇」、昨年度から今年度にかけての世の中は、「new normal」と呼ばれる、これまでとは全く異なった社会状況になってしまった。2月5日、アストラゼネカ社が、英オックスフォード大学と共同開発したワクチンの日本における製造販売承認を厚生労働省に申請した。2月12日には、アメリカのファイザー社とドイツのBioNTech社が開発したワクチンが、製造拠点であるベルギーから成田空港に空輸されたというニュースが流れた。これらのワクチンがまもなく日本にでも開始される予定になっている。これから数カ月のうちに状況が改善し、「new normal」と呼ばれる社会現状から、以前の「as usual」な社会状況に世の中全体が戻ることを祈るばかりである。



一方医局では、昨年引き続き明るいニュースが続いている。本年度は森内 亨先生が、後期研修医として入局してくれた。小森 学先生が、東京慈恵会医科大学附属第三病院から来られ、講師として耳科学、小児耳鼻咽喉科の分野で活躍してくれている。伊藤友祐先生が、東京慈恵会医科大学附属病院から来られ助教として、耳科学、鼻科学、一般耳鼻咽喉科の分野で活躍してくれている。今年度は日本中が、否世界中が明るい話題でいっぱいになっていることを記念して、本年度の巻頭言とさせていただきます。

会長あいさつ

服部康介

四門会会員の皆様におかれましては、常日頃より会活動に対するご理解ご協力を深く感謝申し上げます。

改元より1年、令和2年度は正に疫病の年でした。新型コロナウイルス、COVID-19の世界的な流行により多くの人命が失われました。会員の先生方の中にも最前線でCOVID-19と戦っている方々がいらっしゃると思います。罹患そのものにより命を落とされた方以外にも、長期間の自粛生活による精神的疲労や経済活動の停滞により生活が立ち行かなくなった方など、負の影響が世界中に影を落としています。多くの人々が待ち望んでいた2020東京オリンピックの中止延期などわが国でも



その影響は枚挙に暇がありません。我々耳鼻咽喉科医も受診患者の半減やマスク、手袋、ガウン等医療ソースの不足など多大な影響を受けております。しかし、こんな時だからこそ“同じ釜の飯を食った”仲間同士で助け合い、知恵を出し合い、声を出し合うことで救われる面も沢山あると思います。

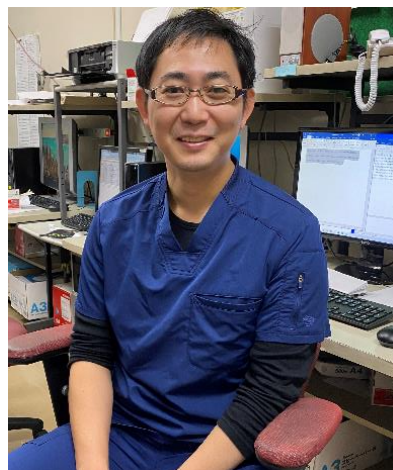
今年の第24回総会は残念ながら例年の様に皆で集まったり会食したりすることは出来ませんでした。大学教育棟で必要最低限の人数で集まり無事重要事項の承認を得ることが出来ました。また再度、会員の皆様と笑顔でお会いできることを楽しみにしております。皆様、時節柄ご自愛ください。

医局長あいさつ

齋藤善光

2019年4月から引き続き、医局長を務めさせて頂いている齋藤善光です。

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、先生方も感染対策、そして日々の診療にご苦労されている中、多大なご協力を賜り感謝しております。当院でも様々な局面に対し迅速に反応しながら対応を行っておりますが、それでも難しい事も多々あり、緊張感を持ちながら感染対策、そして一般業務との両立を模索しております。当科としては、コロナ蔓延当初から発熱外来に耳鼻科医師を派遣し、コロナ診療に従事しておりますが、日々刻々と新型コロナ陽性患者の増加が確認されるため、医療崩壊への強い危機感も感じております。本会誌が先生方のお手元に届くころには、少しでも現状が打開されていることを切に願うばかりです。



今年度の医局報告ですが、新入局者として東京慈恵会医科大学より、小森学先生が聖マリアンナ医科大学 講師として入局して頂きました。諸先生方もご存じかとは思いますが、耳科学は勿論の事、小児耳鼻咽喉科の専門としても、診療に携わって頂いております。小児耳鼻咽喉科領域を専門として行っている施設は、全国的にみても非常に少なく、当院にとっても新たな取り組みとなります。そのため、専門外来として、小児耳鼻咽喉科外来（第3土曜日）を開始しておりますので、患者様がいらっしゃいましたらご紹介の程宜しくお願い致します。新卒者としては、4月より森内亨先生が入局し、東京慈恵会医科大学より伊藤友祐先生が国内留学として当院に勤務しております。今後、四門会および各学会等でお目にかかることもあるかと思いますが、ご指導の程宜しくお願いいたします。

2021年度は肥塚教授の退官が予定されております。最後の1年をご一緒させて頂くことは大変喜ばしくも思いますが、同時に寂しく、今後への強い不安感も抱いております。少しでも、肥塚教授の退官に花を添える事が出来るよう、医局員一同、努力する所存です。新型コロナウイルス感染症により、様々な見通しが立たず、今後の状況が不透明ではありますが、これを乗り越え、四門会、そして聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科のさらなる発展が遂げられるよう邁進していきたいと考えております。今後共、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

新入医局員あいさつ

小森 学

この度令和 2 年 4 月より伝統ある本教室に入局させていただき講師を拝命しました小森 学と申します。コロナ禍の中で先生がたに直接お会いすることが叶わないため紙面をお借りして自己紹介とご挨拶をさせて頂きたいと存じます。

私は昭和大学を平成 16 年に卒業後慈恵医大の森山教授からお誘いをいただき慈恵医大で研修医をした後に医局へ入局しました。途中国立成育医療研究センターに勤務した後に慈恵医大に戻り講師、第三病院診療部長を務めた後、肥塚教授の暖かいご配慮を賜り本教室の仲間に加えて頂きました。

私は耳科手術や聴覚医学を主な専門としつつ、小児耳鼻咽喉科領域に対しても臨床経験を積んでまいりました。元々様々なことに首を突っ込む癖があるため、小児難聴から始まり遺伝子、中耳手術、人工内耳手術や高齢者の補聴器装用まで幅広くトレーニングを積んできました。今後は後輩にもこの領域の面白さを伝え Total Otologist を育てたいという願望があります。また、同時に小児耳鼻咽喉科という専門分野を立ち上げたいと考えています。この分野もまだまだ領域別に分かれた診療がされておりますが、将来的には 1 人の小児の成長発達を支援するという形で耳鼻咽喉科医が関わられたらと考えています。聴覚・言語・上気道といった耳鼻咽喉科が関わる部分は非常に多く、是非この分野を発展させていきたいと思っております。

肥塚教授のご厚意もあり赴任後に言語聴覚士を雇用し、必要な検査機器を購入し補聴器外来、小児補聴器外来、言語聴覚外来、小児耳鼻咽喉科外来などといった専門外来を立ち上げさせて頂きました。

まだまだ不慣れなことが多く皆さまにはご迷惑をおかけしていると思っております。今後も教室の皆さま、同窓の諸先輩には厳しく御指導を賜ればと存じます。今後ともどうかよろしくごお願い申し上げます。



新入医局員あいさつ

森内 亨

2020年4月より聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入職させていただきました森内 亨と申します。聖マリアンナ医科大学入学後はアメリカンフットボール部に所属し、大学時代は部活に勤んでいました。卒業後はMEC（医師国家試験専門予備校）を経て、日本鋼管病院で研修を行いました。以前から手術に携わりたいという希望があり、外科系を中心に研修しました。耳鼻咽喉科の外科的部分以外の幅の広い領域にも魅力を感じたため、耳鼻咽喉科に進むことを決意いたしました。

父・兄共に聖マリアンナ科大学卒業生であり、自分自身も聖マリアンナの温かみが忘れられず、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科医局へ入局を決意しました。

今年度は半年間本院の腫瘍班で温かく・楽しくご指導いただきました。現在は多摩病院にて、信頼できる先生方にサポートしてもらいながら楽しく後期研修生活を行っております。

医局員の一人として、今後ともよろしく願いいたします。



退局のご挨拶

片倉町みみ・はな・のどクリニック 藤田 聡子

2020年3月をもって、医局を退局致しました。

聖マリアンナ医科大学の医局に入局させて頂いたあと、とても驚いたことは、上級医から研修医を含めた新人医師までが、皆とても仲が良く、少ない人数ながらも皆で協力し助け合いながら日々の忙しい診療を行っていたことでした。新人医師は分からないことは何でも気軽に上級医に質問することができ、また何事があっても助けてもらえるという安心感のもと自ら一生懸命に学び、丁寧な指導のもと手術の腕を磨く環境があり大変驚きました。またそうした中で重症疾患や稀少疾患など大学病院ならではの症例も多くあり医師として貴重な経験を積むことができたのは大変ありがたいことだと思いました。また患者さんのため親身になって診療する姿は、まさにマリアンナ医科大学の精神なのだと感じました。医師としての姿勢含め、大変多くのものを学ばせて頂きました。

大学を離れ、多摩病院に在籍させて頂いたころは、晝間先生、中村先生のご指導のもと、皆で協力しあいながら診療を行い、様々な経験をさせて頂きました。

自分が母になり子供を自宅近くの耳鼻科に連れて行ったときのこと、怖そうな先生に恐縮してしまい「子供の耳垢を取ってください」の一言も言えない自分がいました。自分以外にも、質問したいことを聞けないままの母親もいるのではないかと思いました。私はもともと外来が好きでしたので、地域医療に貢献したいという思いが、子供を授かり患者の親という立場を経験したことで強くなりました。それでも新規開業は正直自信がなく、今後を模索していたころ、ふとしたことから継承開業のお話がありました。院長先生のお人柄や真摯に地域医療を続けていらっしゃったことに心を打たれ、継承を決意しました。継承開業の時期は5月でコロナ渦であり心配も強かったのですが現在も試行錯誤しながらもなんとか日々過ごしております。

今後も、微力ながら、地域医療は勿論のこと、医局・聖マリアンナ医科大学へ貢献できればと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

退局のご挨拶

やぐち耳鼻咽喉科クリニック 谷口 雄一郎

令和2年3月をもちまして聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科を退職させていただき、高津区溝口に開業する運びとなりました。在籍中は肥塚教授をはじめ医局の先生方には、多大なるご支援をいただき心より感謝申し上げます。

私は平成8年に慈恵医大を卒業し耳鼻科に入局致しました。その後、慈恵医大本院、柏分院、東京厚生年金病院、佐久総合病院などを経て、平成26年に縁あって聖マリアンナ医大耳鼻咽喉科の准教授を拝命し、約6年間の心に残る医局生活をすごさせていただきました。

聖マリアンナに赴任した当初は外様ということもあり、なかなか打ち解けることができない日々が続いておりました。そんな中で行われた初めての医局旅行で医局員たちと飲み明かし、自ら宴会芸を披露するなどして（全然うけなかったのですが）、その頃から徐々に距離が縮まっていったように思います。当時はまだ医局員の数も少なく、皆が外来や当直に忙殺される日々が続いておりました。なんとか医局員を増やそうと、医局員総出の勧誘が功を奏して、次第に学生たちの人気も上がり、ローテーションの研修医も増えて、医局員もうなぎのぼりに？増えました。それに伴い手術数も増え、専門外来も充実し、熱気溢れる医局になったと思います。日本一と言えるめまい診療に加えて、頭頸部腫瘍、耳科、鼻科の各領域でレベルの高い治療が提供できるバランスの取れた耳鼻科は全国的にも少ないのではないかと思います。今後は臨床に加えて基礎研究にも力を入れ、これまで少なかった海外留学にも若手の先生方には積極的に挑戦して行って欲しいと思っています。

私自身はこれまで行ってきた再生医療に関する基礎、臨床研究を継続させ聖マリアンナでは初となる特別再生医療委員会を立ち上げて、再生医療を用いたヒト臨床研究を開始し成果を残すことができました。このような充実した日々を過ごすことができたのも、多くの協力をいただいた皆さんのおかげと感謝しております。

自分は慈恵をこよなく愛し、慈恵が大好きな人間でした。ただいつの日からかわかりませんがマリアンナの後輩たちと過ごしているうちに、この医局が一番居心地の良い場所になっていることに気づきました。これからも聖マリアンナのOBとして医局に貢献できるよう、物心両面からのサポートを行ってゆく所存です。

最後になりましたが、聖マリアンナ医大同窓の先生方ならびに関連の諸先生方には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



大学院生便り

荒井 光太郎（大学院 4 年）

聖マリアンナ医科大学大学院 4 年生の荒井光太郎と申します。現在は横浜市西部病院に勤務しています。私の研究テーマは、ガドリニウム鼓室内投与後のマウス前庭に対して、高磁場 MRI 等を用いることにより経時的な変化を観察し、マウスにおける前庭水腫の基準を新たに設けることです。研究の過程で前庭の最大径となる画像面を設定し、切り出し、保存していくのですが、装置の概念や操作方法等を習得するのに時間がかかりました。当初はファイル名や切り出し平面を誤るなどして混乱しましたが、次第に慣れていきました。内リンパや前庭の容量を、Photoshop を用いてピクセル数で分析したのですが、極力ブレの無いよう計測し、さらに共同研究者も同様の計測を行い照合しました。多数の論文を読み最新の研究や臨床を知るたびに、自身の研究の意義を再確認し研究に臨みました。その後様々な課題に直面しましたが、多数の方々の手厚い指導により無事論文を完成させることができました。日々の診療や研究においても多大な御迷惑をお掛けしている中村学先生、多忙な中でも深夜まで論文に御目通しくくださった瀬尾徹先生、そして肥塚泉教授をはじめ多くの方々に、僭越ながらこの場を借りて感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

大学院生便り

稲垣太朗（大学院 4 年）

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室、大学院 4 年の稲垣太朗と申します。今年も大学院便りを寄稿させていただきますが、今年が最後の寄稿と思うとなんだか寂しい気持ちになります。私は耳鼻咽喉科教室の大学院に在籍しながら、2017 年 4 月より 2 年間臨床を離れ、東京女子医科大学内にある先端生命医科学研究所で細胞シートを用いた外耳道閉鎖症に対する新規治療の研究をおこないました。具体的な研究内容としては、兎の口腔粘膜を培養し、培養した口腔粘膜由来の細胞シートを兎の外耳道皮膚を剥離した部位に内視鏡下で移植することで外耳道閉鎖を抑制するか検討しました。幸いにも動物実験での細胞シート移植が外耳道閉鎖症を優位に抑制するという研究結果を示すことができました。無事、2020 年 4 月に学位論文として Acta biomaterialia という journal に accept され現在は学位審査を控えています。また同年 12 月には栄えある同門会賞も頂き、同門会の皆様には心より感謝しております。充実した 4 年間の大学院生活ではありましたが、心残りなのは研究結果を COVID-19 の感染拡大により国際学会での発表ができず海外のアカデミアとの交流もできなかった点です。今後は世界的な COVID-19 のパンデミックが落ち着くのを祈りつつ、感染終息後、国際学会での発表を活発に行いたいと考えております。臨床に関しては、臨床から離れた期間が長かったため、そのブランクを埋めるために日々臨床能力の向上に精進しております。また基礎研究で得た経験や知識を臨床に還元したいと考えており、来年度以降は臨床を行いつつ研究も続けられるような環境を整えたいと考えています。

最後になりませんが、東京女子医科大学での 2 年間の研究機会を与えてくださり、サポートしてくださった肥塚教授、そして医局員の皆様にはこの場をお借りして深く御礼を申し上げます。



四門会賞授与

大学院生便り

大原章裕（大学院 4 年）

聖マリアンナ医科大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学 第 4 学年の大原章裕です。

今年秋頃 *Auris Nasus Larynx* に *Effects of using cane and vestibular rehabilitation on the walking function in elderly patients with dizziness* を投稿し受理されました。それを主論文として学位審査を受ける予定となっております。

ここまで来られたのは、ひとえに肥塚教授をはじめ、医局員の先生方のお力添えのおかげであり、深く感謝しております。

来年度は国立がん研究センター中央病院 頭頸部内科への国内留学を予定しております。大学院では主にめまいの研究に従事していたので、あまり今までの知識を使う機会はないと思います。しかし研究、臨床に対する実直な姿勢と、それが如何に大切なものであるかを、肥塚教授の普段のお姿から、勝手にではありますが学ばせて頂き、そちらに関しては今後どこでどのような医師人生を歩もうとも私のバックボーンとなると信じております。大変有意義な 4 年間で過ごさせて頂きありがとうございました。来年度に肥塚教授はご退官されてしまい大変寂しくありますが、師事できたことを光栄に思います。留学先でも、その後も大学院で過ごした時間を忘れることなく精進して参ります。

コロナ禍と大変な状況が続いておりますが、四門会の先生方、またご家族様のご健康を心よりお祈りしております。今後も変わらぬご指導とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

大学院生便り

笹野恭之（大学院 3 年）

大学院 3 年生の笹野恭之と申します。昭和大学を卒業後、浜松の聖隷三方原病院で研修を行い、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に入局して現在 4 年目となります。この度は大学院便りを書かせていただける機会を頂きました。

私の研究テーマは「肩関節への体性感覚入力が半規管動眼反射と耳石器動眼反射におよぼす影響」です。これまで北島先生、宮本先生、三上先生ら諸先輩方が行われてきた研究の蓄積のもと新たにデータを収集しております。肥塚教授から多くの先生方が行ってきた回転椅子の研究に携われることに大きなやりがいを感じております。

現在データ収集および解析は終了し、先日の 2020 年 11 月 26,27 日に行われた第 79 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会にて、研究報告をいたしました。今後論文作成を行う予定です。

自分が学生の際は、研究室配属などもなく、大学院生となることは想像もしていませんでした。同じ医師である父や兄達からは驚かれましたが、望んで大学院に行ける環境はとてもうらやましいとも言われました。とても恵まれた環境だと感じております。

日々のデータ取りは診療の合間に職員や学生の方々にご協力頂き、データの解釈や考察には肥塚教授や大学院 4 年生の望月先生にご指導いただき、多くの方々のご協力により研究できていることに感謝しております。あと 1 年間でしっかり形にして、日々を過ごしていきたいと考えております。

臨床からも離れず研究をできる聖マリアンナ医科大学の臨床研究医のシステムは、非常に魅力的だと感じておりますが、私より下の学年として大学院に入学している医局員はいない状態になっているので、どうかこの状況を打破したいと考えております。

まだまだ未熟者ではございますが、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科および患者様に貢献できるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

大学院生便り

西本寛志（大学院4年）

まだまだ寒い日が続いておりますが、先生方はいかがお過ごしでしょうか。
今年の大学院生便りとして、私の大学院での研究成果をご報告させていただきます。
およそ3年間、秦野赤十字病院において難聴患者を対象として蝸電図検査を施行し、そのデータを用いて蝸牛機能について検討いたしました。
大橋徹先生のご指導のもと、有毛細胞の機能として蝸牛基底膜の振動を調節する機構があり、この機構は難聴の進行に伴い失われる傾向があることを明らかにしました。本研究の成果を「対クリック刺激法を用いたヒト蝸牛抑制機構の検討」と題して論文化し、日本耳鼻咽喉科学会会報に掲載していただきました。また同論文を大学院の学位審査の主論文として評価していただき、何とか大学院を卒業することができました。
大橋先生、肥塚教授のご指導、ご助力がなくてはゴールまでとても到達できず、先生方には感謝の言葉も御座いません。
大学院生としての研究は一段落つきましたが、今後も新たな発見ができるよう尽力して参りたいと思います。
COVID-19の流行で制限が多い世の中ですが、先生方におかれましても体調を崩されませんようご自愛ください。

大学院生便り

望月文博（大学院4年）

大学院4年目の望月文博と申します。聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に所属させて頂いてから、7年目となります。私が現在行っている研究内容や臨床を中心にご報告させていただきます。

大学院での主な研究テーマは、「視覚入力が前庭-眼反射（半規管-眼反射および耳石-眼反射）におよぼす影響」です。この研究は、当教室が所持している回転いす検査装置が欠かせないため、他教室では行えない研究と言っても過言ではありません。マリアンナで、肥塚先生と諸先輩方が行っていた研究であり、無事にめまい平衡医学会誌に論文掲載され、ほっとしております。また、同研究を主論文として、学位審査も終了したため、大学院生生活も残りわずかであり、少し寂しく感じております。

また、2020年のめまい平衡医学会にて、「高齢めまい患者における杖使用の平衡機能への影響」という論文に対して学会賞を受賞いたしました。肥塚先生の宿題報告での研究の一部の論文となっております。同研究に対して、四門会賞も頂きました。ご指導頂きました肥塚先生はじめ医局員の先生方並びに、この場をお借りして感謝の意をお伝えいたします。

2020年は、新型コロナウイルスにより、臨床や研究面にも影響が多く出ております。新型コロナウイルスがなければ、次の4月からアメリカへ研究留学予定でしたが、延期の運びとなってしまいました。まだまだ、新型コロナウイルスの猛威は続いておりますが、意気消沈することなく、臨床・研究ともに継続していきたいと思っております。

このように、充実した医師生活ができることは、肥塚先生をはじめ、教室の先生方のご指導ご鞭撻のおかげと感じております。

簡単ではございますが、わたくしの現状報告とさせていただきます。



四門会賞授与

医局構成

令和3年1月1日現在

名誉教授	竹山 勇
客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
特任教授	岡田智幸
准 教 授	晝間 清
特任准教授	瀬尾 徹
講 師	春日井 滋・小森 学・佐々木祐幸・深澤雅彦・宮本康裕
助 教	齋藤善光 (医局長) 明石愛美・伊藤友祐・四戸達也・鈴木 香・中村 学・三上公志
任期付助教	青海瑞穂・赤羽邦彬・岩武桜子・小野瀬好英・神川文彰 川島孝介・久保佑介・多村悠紀・藤井正文・堀江怜央・森内 亨 森田 翔・山田善宥
大学院生	荒井光太郎・稲垣太郎・大原章裕・笹野恭之・西本寛志・望月文博
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・及川貴生・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 北島明美・木下裕継・工藤典代・釘持 睦・佐藤成樹・武田憲昭 中村 正・日比野 浩・谷口 雄一郎
登 録 医	高橋 姿
研 究 員	阿久津征利・犬飼賢也・加藤弓子・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	鈴木 愛
関連病院	AOI 国際病院、麻生総合病院、稲城市立病院、稲城台病院、 川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、 済生会川口総合病院、左近山診療所、慈泉堂病院、島田総合病院、湘南病院、 総合高津中央病院、ソレイユ川崎、東京労災病院、 独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター、 秦野赤十字病院、淵野辺総合病院、横浜市西部病院、横浜総合病院 (50音順敬称略)

出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	瀬尾 徹 中村 学 荒井光太郎 笹野恭之	045-366-1111	045-366-1190
多摩病院	晝間 清 鈴木 香 多村悠紀 森内 亨	044-933-8111	044-930-5181
癌研有明病院	新橋 涉	03-3520-0111	03-3570-0343
済生会川口総合病院	四戸達也	048-253-1551	048-256-5703
東京労災病院	久保佑介	03-3742-7301	
独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸 赤羽邦彬	045-851-2621	045-851-3902
秦野赤十字病院	神川文彰	0463-81-3721	0463-82-4416
横浜総合病院	小野瀬好英	045-902-0001	045-903-3098
AOI 国際病院	外勤医師	044-277-5511	044-277-5747
麻生総合病院	外勤医師	044-987-2522	044-988-0878
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
稲城台病院	外勤医師	042-331-5531	045-331-6287
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
慈泉堂病院	外勤医師	0295-72-1550	0295-72-1578
島田総合病院	外勤医師	0479-22-5401	0479-23-3613
湘南病院	外勤医師	046-865-4105	046-866-4584
総合高津中央病院	外勤医師	044-822-6121	044-822-7995
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
淵野辺総合病院	外勤医師	042-754-3700	042-754-2201

《頭頸部腫瘍外来》 火曜日AM

担当医：春日井滋、深澤雅彦、三上公志、明石愛美

毎週火曜日の午前中に、春日井、深澤、三上、明石の4人体制で行っております。本年度はコロナウィルスの影響もあり、良性腫瘍の手術に関しては4～6月は一時的に延期の対応をさせていただいておりましたが、現在は良悪性問わず、手術を通常通り行っています。手術枠も柔軟に対応して頂き、患者様のニーズに合わせ、スムーズに施行させて頂いている次第です。

手術症例だけでなく、放射線治療、化学療法についても、日々、アップデートしています。昨今は、外来通院にて化学療法施行可能なレジメンもあり、患者様の生活背景によって腫瘍センターと連携し、治療を行っています。

OBの先生方を含む、近隣医療機関からの頭頸部腫瘍のご紹介があり、年々、頭頸部症例や手術件数は増加しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。引き続き、頭頸部腫瘍症例に関しましては当院へご紹介をよろしくお願いいたします。

頭頸部患者様の高齢化も進んでおり、治療選択の難しさを痛感しています。患者様ご本人およびご家族の意向に沿った、治療選択ができるよう腫瘍チームだけでなく、地域連携看護チームとも協力し取り組んでいる次第ですので、ご高齢の症例などもご相談いただければ幸いです。

頭頸部腫瘍チーム一丸となって、カンファレンスを繰り返し患者様の各々に見合った治療を提供できるよう日々、心がけています。引き続き、地域の患者様には信頼のおける治療を提供し、安心して頂けるよう心掛けて参りますので今後ともよろしくお願いいたします。
(明石愛美)



《嚥下外来》 火曜日 PM

担当医：春日井 滋、山田善宥、森田 翔

嚥下外来は2018年度から開始となっており今年度で3年目となっております。毎週火曜日の午後に外来を行っております。現在は春日井 滋医師、山田 善宥医師、森田 翔の3名体制となっております。主な診療内容といたしましては、入院中の患者様や嚥下障害を主訴とする患者様の嚥下機能評価を嚥下内視鏡検査（VE）にて行っております。適切な食形態を検討し、嚥下機能改善目的に言語聴覚士の指導の元リハビリ導入を行っております。また、毎週木曜日には脳神経内科医師、耳鼻咽喉科医師、言語聴覚士、放射線技師、栄養士と共に多職種カンファレンスを行い多数の症例を共有し検討しております。

本年度は現在までに約130件のVE検査を行っており昨年度と比較し多くの症例を経験させて頂いております。また、外科的加療に関しては誤嚥防止のための喉頭摘出術（1例）や喉頭挙上術（2例）を行っております。今後さらに症例数を伸ばしていけるよう精進して参ります。

私は後期研修3年目であり、診療に関してまだまだ未熟ではありますが、専門外来に携わる機会を頂き、より専門的な知識や症例を経験させて頂いております。私自身さらに精進して参りますのでこれからも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（森田 翔）



《喉頭・音声外来》 水曜AM

担当医：春日井滋、山田善宥

専門外来は、例年と変わらず、毎週水曜日午前3時に春日井先生と私の2名で行っております。主に扱う疾患は声帯ポリープ、声帯結節、ポリープ様声帯、声帯白板症、喉頭肉芽腫、喉頭乳頭腫、声帯麻痺などが中心です。外来内容はGRBASスケール、ストロボスコープ、音声機能検査（MPT、MFR）、音響分析的検査などを行い、手術適応も含めて評価しております。同様の検査を術後にも用いて再評価しております。

また、発声障害に関しても言語聴覚士と協力し、外来で音声リハビリなども行っております。

私は後期研修4年目であり、未熟者ではありますが、春日井先生の熱い指導のもと、日々勉強させていただいております。今年度はコロナウイルスの影響もありますが、手術件数はまだまだ不足している状況ですので、今後とも是非ご紹介いただくと幸いです。

OBの先生方におかれましては、いつも患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。これからも、信頼のおける医療を提供できるようより一層精進して参りますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。（山田善宥）



《副鼻腔・アレルギー外来》 水曜PM

担当医：宮本康裕、齋藤善光、稲垣太郎

2020年4月より宮本康裕・齋藤善光・稲垣太郎が大学本院にて水曜日午後、鼻・副鼻腔・アレルギー外来を担当しております。2020年は世界を取り巻く新型コロナウイルスの蔓延の影響により一時、全身麻酔を含む全ての外科的処置をやむなく一時中断しておりました。感染予防に細心の注意を払いながら、5月より手術を再開しており、鼻副鼻腔手術件数も増加傾向であります。また来院される患者様の数も例年通りに戻ってまいりました。当外来の特徴としては慢性副鼻腔炎をはじめとした様々な疾患やアレルギー疾患を扱っている点であります。年間150件を超える内視鏡下鼻副鼻腔手術（I～V型）をはじめとし、脳神経外科と連携した頭蓋底手術、さらには日帰りのポリープ切除術や、外来での下甲介ラジオ波凝固治療など様々な外科的治療を行なっております。また、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法はもちろんの事、重症のアレルギー性鼻炎や好酸球性副鼻腔炎に対しては、外科治療のみならずヒトIgEモノクローナル抗体製剤を用いた治療も行なっております。このように、患者様の疾患やニーズに合わせ、幅広い様々な治療を提供できるよう日々心がけております。近隣のご開業の先生方には日頃より多くの手術症例をご紹介いただきましてまことにありがとうございます。（稲垣太郎）



《中耳・聴覚外来》 木曜PM

担当医：宮本康裕、小森 学、稲垣太朗、堀江怜央
越智健太郎、木下裕継、劔持睦

本年度より中耳・聴覚外来を担当しております、後期研修医 3 年目の堀江怜央と申します。現在聴覚外来は毎週木曜日の午後に宮本康裕、小森学、稲垣太郎、堀江怜央、越智健太郎(非常勤)、木下裕継(非常勤)、劔持睦(非常勤)の7名で診療を行っております。慢性中耳炎や中耳真珠腫などに対する手術症例から小児の遺伝性難聴症例まで幅広く診療を行っております。

手術では顕微鏡に内視鏡を補助使用する MES (Endoscopy-assisted MES) を主流とし、内視鏡下でのアブミ骨手術や外リンパ瘻、耳小骨奇形などに対して経外耳道的内視鏡下耳科手術 (TEES) を行っております。

難聴の検査では既存の OAE や ABR だけでなく ASSR も積極的に施行し、小児難聴への速やかな精査、治療方針の決定に心がけております。

また今年度から医師、補聴器技能者、言語聴覚士で協力して補聴器のフィッティングも行っております。

私は診療に関してまだまだ未熟な面が多々ございますが、上級医の先生方のご指導のもと患者様に最良の医療をお届けできるようこれからも努めて参ります。

OB の先生方におかれましては、コロナ禍で厳しい状況が続く中、いつも患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

今後も患者様により良い医療が提供できるように努力していく所存でございますので、何卒一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(堀江怜央)



《めまい外来》 金曜 PM

担当医：肥塚 泉、三上公志、伊藤友祐、
望月文博、大原章裕、堀江怜央

めまい外来を担当しております、大原章裕と申します。

めまい外来は、4月から慈恵医科大学より伊藤先生が、11月からは笹野先生に代わり堀江先生が加わり、現在は肥塚先生をはじめ6名で金曜午後に担当しております。

大学病院であるため担当医師の入れ替わりは多いですが、肥塚教授の指導のもと各々がより良い医療を提供しようと精進しております。

診療だけでなく、臨床研究にも積極的に取り組んでおり、今年度は望月先生が「高齢めまい患者における杖使用の平衡機能への影響」を Equilibrium Research に投稿し、学会賞を受賞され、第79回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会にて受賞公演を行われました。

コロナ禍にあっても、以前と変わることなく診療と研究が行えているのは、平素より貴重な症例をご紹介くださっている先生方のおかげであり、この場をもちまして厚く御礼申し上げます。

2021年度も新入局員を迎えることができ、若い力を育成するためには今後も先生方のお力添えが不可欠と考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。(大原章裕)



《小児耳鼻咽喉科外来》 第三土曜 AM

担当医：小森 学

小児耳鼻咽喉科外来は学童などの来院が比較的容易な土曜日を外来日としております（現在は第三土曜日）。従来小児疾患は縦割りで診療されることが多かったと思われませんが、成長発達や各診療領域を横断的に捉えて診療する必要があると考えているため、小児の耳鼻咽喉科領域に関わる全ての疾患を対象とし、総合的に診断・評価・治療を行うように心がけています。

対象疾患としては先天性難聴、滲出性中耳炎、慢性中耳炎、言語発達遅滞、構音障害、音声障害などからアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法、睡眠時無呼吸、喉頭・気管疾患（喉頭軟弱症や気管カニューレトラブルなど）などの他、先天性の症候群性疾患も対象としております。また、発達などとも関連することが多いため言語聴覚士と連携し、必要があれば言語聴覚療法を行い、小児補聴器にも対応出来るよう認定補聴器技能者にも来て頂いております。

難聴治療に関しては通常の鼓室形成術に加え、各種補聴器（骨導・軟骨伝導含む）から人工聴覚器（人工内耳・人工中耳・骨導インプラント）全てに対応できるように整えました。また、扁桃肥大やアデノイド肥大に伴う小児 OSA ではパワーデバイスを使用した痛みと術後出血の少ない治療を推進し、今後は MFT（口腔筋機能療法）などの術後リハビリテーションも導入を考えております。喉頭疾患についても小児科から徐々に紹介が増えてきており、小児科・小児外科の医師とも連携を図っている状況です。

小児耳鼻咽喉科としての専門外来を持っている大学病院は少なく、小児専門病院での診療経験を生かしつつ、今後は後輩の育成も考えて診療を行っていきたいと考えております。お困りの場合には是非一度ご相談頂けましたら幸いに存じます。（小森学）



関連病院だより 《聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院》

部長：瀬尾 徹

主任医長：中村 学

医員：荒井光太郎、笹野恭介

2020年4月、マスメディアに報道されたよう当院では80名にも及ぶCOVID-19の院内感染が発生しました。ご心配・ご迷惑をおかけし、大変申し訳ありません。今回は、当科での対応についてご報告させていただきたいと思います。

全国でCOVID-19が蔓延しはじめた2020年3月末のある日、中村主任医長の「手術はどうしますか？」のひと言に端を発します。並外れた情報収集力を持つ彼が言うには、すでにいくつかの大学では感染予防のため手術を中止しているとのこと。そこで、中村君とともに情報・文献の収集解析を行ったところ、中国では眼科医、耳鼻科医の死亡者が多く、また手術室での集団感染の情報を入手しました。その結果、当面は予定手術を中止せざるをえないとの結論に達しました。病院長と手術部長の了承をとりつけ、4月第2週より手術を全面休止としました。

4月に異動してきたばかりの荒井君と岩武君の仕事は、手術の延期を伝える電話となってしまいました。その甲斐あって4月20日の耳鼻科含む混合病棟での院内感染発生時には、すでに耳鼻科の患者はおらず、耳鼻科から1名の感染者も出さずにすみました。この時は発症者の死亡率は高く、当院でも14名が亡くなっています。運がよかっただけかもしれませんが、先手、先手の対応が功を奏したものと思っています。

諸先生方には業務縮小中は大変ご迷惑をおかけし、大変申し訳ありません。またこのような状況下で不満も言わず仕事をこなしてきた医員諸君には感謝いたします。現在、手術入院患者にはPCRと胸部CTを必須としており、感染対策は万全となっています。すでに手術件数は昨年レベルにまで回復することができました。引き続き聖マリアンナ医大の名を汚さぬよう、一層努力してまいる所存です。また11月より岩武君が笹野君と交代となります。皆様のご支援、ご指導、どうぞよろしくお願い申し上げます。(瀬尾徹)



岩武先生最終日（耳鼻咽喉科外来にて全員マスク着用）



現メンバー（設備を一新した平衡機能検査室にて）

関連病院だより 《川崎市立多摩病院》

部長：晝間 清
主任医長：鈴木 香
医員：多村悠紀、森内 亨

この関連病院便りを書くようになり、5年目を迎えます。令和2年度になり、藤田聡子先生が開業、西本寛志先生が大学にもどり、代わりに鈴木香先生（平成20年、慈恵医大卒）、多村悠紀先生（平成27年卒）に大学より来ていただき、藤井正文先生を加えて、今年度も4人体制を守ることができました。鈴木先生は、大学のめまい班で研究診療をしていたとのことなのですが、耳鼻咽喉科専門医に加え、アレルギー専門医も取得されており、当院赴任早々から、アレルギー外来をやってもらっています。また耳鼻咽喉科指導医を取るために学会発表が1つ足りないとのことで、11月のめまい平衡医学会で小児の突発性難聴に伴う頭位眼振について発表していただきました。症例報告ではあるのですが、



が、やや斬新な内容で、論文になるのを密かに楽しみにしております。多村先生は、頭頸部外科に興味があるようで、当院でやれる頭頸部腫瘍の手術には必ず入っていただき、指導していきたいと思っております。最近増えている、女性の頭頸部がん専門医に将来、育ててもらえればと思っております。残ってくれた藤井先生も、1月に沖縄の頭頸部外科学会で発表した内容を論文にしてくれて、こちらもうれしい限りです。1月の沖縄の学会には、小生も参加したのですが、今考えると、いいときに旅行気分が味わえたのだなあと感じています。本土に帰ってきてからは、ご存じのように、新型コロナ感染拡大が終息せず、当院も11月にクラスター発生で入院の中止、外来の縮小を余儀なくされました。そんな中で、10月には、藤井先生の代わりに大学から森内亨先生（平成29年卒）が来てくれました。コロナ禍の状況での交代で、手術件数の減少の煽りを受けて、残念なのですが、しっかりと診療している態度は頼もしい限りです。部長としては、若い先生方が感染しないように、手術を含めた診療体制の再構築に努めねばならないと思っております。（晝間清）

関連病院だより 《済生会川口総合病院》

部長：早坂 修

医員：四戸達也

当院は京浜東北線西川口駅より徒歩 10 分程度の場所に位置しており、駅周辺は世間的にはいわゆるリトルチャイナとよばれる中国人街が形成され、外国籍の方が多い土地柄となっております。病院規模は一般病床 424 床および ICU14 床を有し、二次救急指定病院として川口市・埼玉県南部の地域中核病院を担っております。

当科への聖マリアンナ医科大学からの医師派遣は長らく途絶えておりましたが、2018 年度より週 2 回、2019 年度は週 3 回、聖マリアンナ医科大学より非常勤医師の派遣が開始され、2020 年度より私（四戸）が常勤医師として着任しております。

診療体制は早坂修主任部長と私の常勤医師 2 名に加え、木曜日午前中の外来は大学より週交代制で明石医師および西本医師の応援をいただいております。また、不定期で初期臨床研修医の受け入れも行っております。外来は完全紹介制を導入しており、月～木曜日午前は 2 診、金曜日午前は 1 診体制で行っております。手術は月～水曜日の午後に行っており、口蓋扁桃摘出術や喉頭微細手術をはじめとする咽喉頭手術や内視鏡下鼻副鼻腔手術を中心に行っております。

さて、2020 年 1 月頃より国内では新型コロナウイルス感染症の蔓延が続いており、当院も軽症・中等症の受け入れを行っております。当科への影響も他院の耳鼻咽喉科同様に例外なく受けており、7 月まで不要不急の手術は全例中止となっておりますが、8 月以降は術前の PCR 検査および胸部 CT 検査を必須として手術再開に至っております。徐々に日常を取り戻しつつありますが、今後も感染状況は予断を許さない状況に変わりはなく、気を引き締めて業務に当たって参ります。また、場所が埼玉県と大学からは遠方ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。（四戸達也）



関連病院だより 《東京労災病院》

部長：高柳博久

医員：古谷花絵、久保佑介

2020年4月より東京労災病院に勤務をさせていただいております久保佑介と申します。現在、高柳博久部長と細野祥子医師（～2020年9月）、松井秀仁医師（2020年10月～12月）と私の三人常勤体制で診療を行っております。2021年1月からは東邦大学大森病院より古谷花絵医師に4か月間来ていただくこととなりました。

これまで大学病院・分院での勤務であったため、市中病院での勤務は初めてで慣れないことばかりでしたが、地域に根付いた医療を日々学ばせていただいております。毎日の診療の中で、これまでよりも患者様との距離感が近く感じ、また主治医制度のため責任感を持ちながら診療に当たることができております。

手術に関しては高柳部長と東邦大学大森病院の先生方の手厚いサポートのなか、多くの症例に執刀させていただいております。月曜日と金曜日が手術日となっており、平均週に3～5件の手術を行っております。内訳としては口蓋扁桃摘出術や内視鏡下鼻副鼻腔手術、顕微鏡下喉頭微細手術、頸部良性腫瘍、鼓室形成術など幅広い手術症例があり、専攻医の私にとっては非常に学ばせていただくことの多い環境です。外来に関しては東邦大学大森病院の外勤の先生方にもご協力いただきながら行っております。午前中は一般外来、午後には術前・術後外来やめまい外来、エコー下ガイド穿刺生検、嚥下検査内視鏡・嚥下造影検査などを行っております。入院症例に関しては急性炎症やめまい、突発性難聴、顔面神経麻痺などが多く、ご紹介いただく近隣の先生方には大変お世話になっております。

これからも同門会の諸先生方や医局の力となれるよう日々精進して参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（久保佑介）



関連病院だより 《独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター》

部長：佐々木祐幸

医員：赤羽邦彬

外来日は月～金の午前 8 時 30 分～11 時 30 分。H31 年 4 月から赤羽先生が当院 2 期目の研修を続けております。お子さんも順調に成長しており安泰です。毎週金曜日の手術日は大学からの外来診察医派遣を頂き、4 月から 9 月まで森内先生に、10 月からは以前も来て下さった藤井先生に担当をお願いしております。いろいろあった令和 2 年は 1 日平均 20 人程度の受診者数（前年比 80%）で、新患担当は月・水が佐々木、火・木が赤羽です。

入院数は昨年度の平均が約 2 人で減、R1 年 11 月から R2 年 10 月までの入院手術件数は計 133 件（前年比 67%）、主な内訳は ESS 29 件、扁桃摘 58 件（29 例）、デビ 14 件、チューブ挿入 4 件、LMS 7 件、気切 3 件です。また、全麻手術の計 105 例のうち、R2 年 2 月までに施行した分が半分、残りの 8 ヶ月で残り半分とコロナの影響をまともに受けてしまいました。

当地に出向してから 11 回目の冬を迎えておりますが、H22 年 4 月にリニューアルした当院の外観などはまだまだキレイです。嚥下内視鏡（VE）件数は、週 6 件程度（前年比 60%）で推移しております。現状では外来患者への VE は施行しておりません。

外来看護師は 1 名ですが、曜日により Cブロック（耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科）担当の 3、4 名のうち、1 名が交代で診察介助を行っています。医療事務（MA）は引き続き高井が担当しております。写真は外来での 1 枚です。

首都高横浜環状北西線の完成に伴い、東名川崎インターから横浜青葉インター、第三京浜港北インターを経由して横浜新道戸塚インターまで、保土ヶ谷バイパスを経由せずにほぼ高速道路のみで通勤できるようになりました。北西線は車の台数が日に日に増加しています。

（佐々木祐幸）



関連病院だより 《秦野赤十字病院》

部長：大橋 徹

医員：神川文彰

2020年4月から赴任いたしました神川文彰です。現在常勤は1人体制で、月曜日は宮本先生、火曜日～木曜日は大橋先生、水曜日に荒井先生、金曜日に西本先生と多くの先生方に助けていただきながら日々診療を行っております。

長い期間常勤医がおらず、手術器具を揃えたり病棟の勉強会など一からのスタートでした。今年度はコロナ禍もあり患者数が減少しておりましたが、徐々に紹介患者も増えてきております。手術に関しましても、本院の先生方に助けていただき、少ないながら内視鏡下鼻副鼻腔手術を中心に、口蓋扁桃摘出術、頭頸部良性腫瘍の手術を行っております。

また、時期はまだ未定ではありますが、来年度より小児の入院が可能となるため、小児の手術も検討しております。

今後も近隣の先生方にご協力いただき、入院患者数・手術件数を増やし、地域医療に貢献していきたいと考えております。

これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。(神川文彰)



関連病院だより <横浜総合病院>

部長：田中泰彦

医員：小野瀬好英

2020年4月から赴任いたしました小野瀬好英です。田中泰彦先生と二人体制で日々診療を行っています。月曜日の午後は肥塚先生、木曜日は大学、西部病院から医局員の先生に外勤で来ていただいています。

今年度はコロナ禍もあり上半期は患者数、手術数、入院数など減少していました。当院でも4月から8月は手術を中止していました。現在は内科医師、感染担当看護師と相談し手術入院と扁桃周囲膿瘍、喉頭蓋炎などの炎症系疾患の入院では全例 LAMP 検査と胸部単純CTを施行しています。原則、面会禁止の状況は続いています。手術件数に関しては、去年よりは減少していますが、入院患者、外来患者数に関しては横浜市青葉区、都筑区など近隣だけでなく町田市、川崎市麻生区など広域の開業医の先生方からご紹介いただき昨年とほぼ同程度まで回復してきています。また、他科と協力し嚥下機能評価も行っています。

当院では週に一回の手術日を設けています。内視鏡下鼻副鼻腔手術、口蓋扁桃摘出術、形成外科と合同で鼻中隔外鼻形成術など行っています。副鼻腔手術に関しては新しくナビゲーションシステムを導入し、手術に応用しています。

今後も近隣の開業医の先生方にご協力いただき、診療を行い、手術件数も増やし、横浜市のみならず近隣の地域医療に貢献していきたいと思っております。

これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。(小野瀬好英)



国内留学だより 《東邦大学医療センター大森病院》

川島孝介

2020 年度より東邦大学医療センター大森病院(以下、東邦大学)で鼻科手術を中心に勉強させて頂いている耳鼻科医 5 年目の川島孝介と申します。

私が今回お世話になることになった経緯としては、2 年前に東京労災病院に出向した際、鼻科手術を執刀するようになり、部長の高柳先生に一から鼻 OPE を指導して頂き、その魅力にはまり、何度か東邦大学の和田教授にも手術指導に来て頂いた際に丁寧な指導、流れるような手術手順、仕上がりの美しい手術に感銘を受けたのが始まりです。1 年間の労災病院での出向を終え、聖マリアンナ大学病院本院に戻り、宮本先生や斎藤先生のもとで鼻 OPE を執刀する中で上手になりたい、後輩にしっかりと指導できるようになりたいという思いが強くなり、谷口元准教授、斎藤先生、和田教授にご相談させて頂いたところ東邦大学の医局に所属し修練を積むことに快諾して頂き、現在に至ります。

新しい環境で仕事をするワクワク感と新しい医局に馴染めるのかという不安が入り混じっておりましたが、医局員の皆さんや外勤でお世話になっている開業医の先生方やスタッフに温かく迎えて頂き、楽しく充実した東邦ライフを過ごさせて頂いております。コロナウイルス蔓延に伴い手術ができない時期もありましたが、鼻科手術適応の紹介患者様が大変多く集まり、多くの症例を経験させて頂いております。

これからも聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科の看板を背負っていることを肝に銘じ、東邦大学の医局にもしっかりと貢献し、両方の医局に恩返しができるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

OB 通信

新谷敏晴

平成6年入局の新谷と申します。同門先生方、特に多摩病院、本院先生方におかれましては、このコロナ禍に際し重症例、入院症例をご対応いただき、本当にありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

やはり話題としてはCOVID-19に尽きると思います。これまで新型インフル及びSARSで、ある程度の新規感染症は経験しておりましたが、今回この未曾有の事態にとてつもない不安と、正解のない対応に追われた半年間でした。今まで凧だったのが、急に強風の荒波に小さな漁船一艘で放り出された様な状態でしょうか。患者はもちろんですが、スタッフやその家族も危険に晒させない責任が重くのしかかり、えもいわれぬ不安に苛まれています。

当時は、入手が困難だったマスクや手袋などを調達するために随時サイトをチェックし、数が足りないガウンは100均の雨ガッパで賄う為にあちこちの店を奔走しました。診療も基本はPPE、ファイバーや咳嗽を伴う処置はfull PPEで対応しています。今ではCOVID-19の正体が徐々に解り、処置治療がある程度確立されつつありますが、耳鼻科医としてできうる限り対応したい理想と、市中開業医としてそれが叶わぬ現実に、来たる第三波に向け、なかなか心が休まりません。

そんな中、救われたのが医師会のメーリングリストでのやり取りです。出身大学の垣根を超え、この難関を乗り越えるという共通目標を持ち、次々アップデートされる情報を共有できたことは助けになりました。

また今回の事態での新しい発見はWeb会議の便利さでした。医師会の各会議がzoomで行われ、移動までの時間ロスがなく診療後すぐに参加でき、遅刻が減りました。また、周知の通り今年の総会はハイブリッドになりました。現地での生の臨場感、緊張感は味わえませんが、好きな時間に好きな講義を聞けることは非常に有用でした。昼休みに弁当を食べながら受講する、さながら毎日ランチョンセミナーを味わう感じで、知識向上に役立ちました。

今後は、これまで日々惰性で繰り返していた診療を見つめ直し、アフターコロナに向け、患者のニーズや自分の理想に沿う新たな診療スタイルを確立させる良い機会なのかもしれません。

同門先生方は尚の事、世の医療従事者全てがこのコロナ禍を乗り越えられる事を切に願ひ、拙い「OB通信」を終わりにします。

今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。



OB 通信

菅野澄雄

同門会の皆様こんにちは。このたび寄稿のご依頼をいただき、僭越ながら思うことなどを綴らせていただきます。

昭和 61 年、耳鼻咽喉科教室に入局して以来、竹山勇、加藤功、大橋徹、肥塚泉歴代教授をはじめ多くの先生方、先輩方に、耳鼻科のいろはのみならず、人間としてかくあるべきとご教授を賜りましたこと、また同期の 10 回生の皆様とお互い切磋琢磨して研鑽に励むことができたことに、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。

よく先輩たちから「医師の人生はあっという間に過ぎてしまうよ」と忠告を受けていましたが、まさにそのお言葉のとおり、気がつけば「アラカン」になっておりました。

振り返れば、竹山主任教授のご退任に合わせて退局をお許しいただいたのが平成 8 年のこと。当時、高橋姿助教授へ退職のご挨拶にうかがった際、地域に良質な医療を提供するようにと命じられ、現在までその教えを心に刻み川崎市宮前区に耳鼻科クリニックを運営してまいりました。

医者の家系ではなかったため、銀行融資に頼ったゼロからの船出でした。しかし時はバブル崩壊による「貸し渋り」の時代。実行予定の融資が直前でキャンセルになるなど、嵐の中での航海を余儀なくされました。それでも、勤務医時代につながりのあった患者さんが「ご祝儀」で来院してくださったりして、人と人とのつながりに助けていただいたことを今でも思い出します。

その後、勝見直樹先生に常勤で働いていただきました。ご開業を機に退職された後は、黒田寿史先生に多忙な業務を助けていただき、早いものでもう 11 年経ちました。朝令暮改になりがちな院長をサポートするだけでなく、私が働きやすいようにクリニックの土台を支えてもらっています。おかげで、公私ともに充実した日々を過ごすことができているのですから、感謝してもしきれません。

旅と飛行機が大好きな黒田先生の影響もあって、沖縄へと飛んで趣味のゴルフをラウンドするのが大きな楽しみです。もうひとつの趣味はハワイでのステイ。クリニックの勤務を交代で休むなど時間をやりくりして、のんびりと滞在を楽しんでいます。

子どもたちは耳鼻科医師として病院勤務をしております。息子は専門医となり、慶應大学系列（奇しくも南定先生のご子息と同じとのこと）である佐野厚生病院で、新しい医学を吸収しているようです。いずれ私との世代交代で黒田先生を補佐してくれたら嬉しく思います。娘は結婚後仙台在住となり、一姫二太郎の「ママさんドクター」として東北大学大学院に在籍しています。そういったわけで、私の家内は「家政婦兼ベビーシッター」としてほぼ仙台にいるようになりました。

私の健康寿命があとどのくらい続くのかはわかりませんが、その時々自分の体力と能

力に応じて、仕事とプライベートをバランスよく保っていくことが望みです。そのために今後も自身の検診をできる限りやっていきたいと思っています。

最後になりますが、厳しくなる一方の医療環境に立ち向かうには、同門の協調なしでは困難だと思います。今後も医局員の皆様、同門会長を中心に理事の皆様と知恵を出し合って、いつまでもマリアンナ耳鼻科同門会が繁栄できるようお祈り申し上げます。





OB 通信

田中泰彦

他の先生方もお書きになっていらっしゃるかと思いますが、今年度は何と言っても新型コロナウイルスに尽きるだろうと思います。備忘録の意味も含めまして書かせて頂きます。振り返りますと2月時点ではまだ実感が湧かなかった様な気がします。手帳を見返してみても19日に地方部会の委員会があり、部会長も同席されていて『暑くなったら落ち着くでしょう』と崎陽軒の弁当を食べながら話したのを覚えています。同月にはOBの先生方との会食もありましたが手指消毒をした程度でマスクも無しに飲食や会話を楽しんだのを思い出します。もはや懐かしささえ感じます。ご馳走様でした。日常に明らかな影響が出始めたのが3月に入ってからでした。病院からもMRさんの説明会や歓送迎会などの中止指示が出ました。年度末には海外へ行く予定でしたが3月中旬には渡航自体もままならない状況となりました。緊急事態宣言もあり、4月以降の予定手術は患者さんからのキャンセルもありましたが、日耳鼻からのガイドもあり中止としました。その後は明らかに紹介を含め患者さんが減り始めました(戻っては来ましたが現在でもまだ少ない状況です)。マスクは週に数枚の配給制(現在でも原則1枚/日です)になりました。今もそうですが、見えない敵にビクビクしながら診療をしている状況です。やっと手術を再開したのが7月からでした。手術患者さんは入院前日に胸部CTと唾液によるコロナ検査を必須としています。炎症性疾患も入院の場合当日両検査を必須としています。これからの季節はインフルエンザ検査も追加になるかも知れません。あんなに数多くあった学会や講演会がことごとく中止となりました。原稿執筆の11月初旬現在、少しずつ学会や講演会も再開され始めて来ましたが、手放して『よし行くか』と思えないのが本音です。いつまで続くのか…。楽しい話題を記載したいところでしたが申し訳ございません。来年度は無事に四門会が開催され皆様にお目にかかれまます事を楽しみにしております。

OB 通信

(スポーツドライビングの楽しみ方)

鳥越達也

10 回生の鳥越です。1997 年に横浜市旭区の西部病院のお膝下に開業して 24 年目になります。学生の頃から車の運転が好きで、よく(制限速度内で)飛ばしておりましたが、開業を機に移動というより走るための車に変え、その車種のオーナーズクラブに入会して公道を走る以外のことも楽しみ始めました。

① ドライビングスクール

オーナーズクラブやサーキットなどが主催しており、駐車場などのクローズドコースで、プロのドライバーに講師になってもらい、故意に車をスピンさせた状態から姿勢を立て直したり、パイロンを立ててドリフトモードを経験させてくれたりします。もし普段の走行中にタイヤが滑り出すような事があっても、慌てずに対処出来るようになります、多分。

② ジムカーナ

ホテルやサーキットの大駐車場をクローズして、パイロンを立ててコースを作りタイムを競います。

年に 1 回、クラブの関東 6 支部対抗戦が大磯 P ホテル駐車場で行われます。支部戦と個人戦があるのですが、同一車種の争いなのでコマ何秒差の決着になりみんな真剣です。

③ サーキット走行

何キロ出しても捕まりません！しかしたとえ公道外とは言え、サーキット走行にはルールがあります。最初はライセンス講習会などを受けてルールを学んだり、体験走行をしてから、走行会などに出場して最速ラップ(コース 1 周に要する時間)を競います。

私は主に富士スピードウェイに行くのですが、ラップタイマーや GPS データロガーなどを使えば、自分でベストラップや走行状態を記録できるので、休日などにフリーで走りに行っでどんどんタイムを縮めることができます。プロドライバーに講習を受けることも出来ます。

それからレースなどに参加することもサーキット走行の醍醐味ですが、どうしても接触などのアクシデントの可能性が格段に増えてしまいます。もしサーキット内で事故を起こすと車両保険などが使えない事が多いので、自分の車で参加する場合はそれなりの覚悟とスキルが必要だと思います。

④ ツーリング

仲間同士でコースを決めて公道を走ります。公道なので交通ルールを守って、楽しく目的地までドライブします。

サーキットを走り始めてから 20 年位になりますが、日々の診療で貯まった疲れやモヤモヤを、車を飛ばして解消に行ってます、ってコレじゃあ学生の時とあまり変わらないですね。



①低 μ 路面での、ドリフト講習



②ジムカーナ 初優勝！



③サーキット走行(富士 SW)



④ツーリング

第 24 回四門会総会報告事項

【総会議案審議結果】

令和 2 年 1 2 月 6 日（日）に開催いたしました第 2 4 回聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）総会にて審議された下記の全議案が承認多数にて承認されましたことをご報告いたします

- 【第 1 号議案】 入職者 3 名の四門会入会について
- 【第 2 号議案】 令和元年度四門会決算ならびに監査報告について
- 【第 3 号議案】 令和 2 年度四門会賞について
- 【第 4 号議案】 連絡先不明の会員の扱いを継続審議とすることについて
- 【第 5 号議案】 新役員人事について

聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）
会 長 服部康介

【四門会年会費免除と返納について】

四門会の年会費が 7 0 歳以上の会員は免除となっていることは聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則第 2 条（2）にて規定されております。

しかしながら四門会事務局では会員各人の年齢を把握しきれておらず、会員からの自己申告にて会費免除の判断をしているのが現状です。

つきましては 7 0 歳になられた会員は四門会事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

もし、7 0 歳を超えて年会費を支払われた会員がおられましたら入金状況を確認のうえ過払い分を速やかに返金いたしますので四門会事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

【四門会事務局】

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内

電話:044-977-8111（内線 3261）

FAX:044-976-8748

四門会会長 服部康介

第24回四門会総会議事録

【報告事項】

1. 会員数内訳（令和2年12月1日現在）
総会員数：144名
うち現医局員：35名
2. 会員異動
谷口 雄一郎 令和2年3月31日 退職
 （やぐち耳鼻咽喉科クリニック）
藤田 聡子 令和2年3月31日 退職
 （片倉町みみ・はな・のどクリニック）
3. 新入会員
小森 亨 令和2年4月1日 入職
平成16年（2004年） 昭和大学医学部卒業
伊藤友祐 令和2年2月1日 入職
平成24年（2012年） 東京慈恵会医科大学卒業
森内 亨 令和2年4月1日 入職
平成29年（2017年） 聖マリアンナ医科大学卒業
本年度新入会員上記3名が理事会にて承認された。
4. 退会会員 無し
5. 会計報告（令和元年10月～令和2年9月）
別ファイル参照
理事会にて承認された。
6. 令和2年度役員人事
会 長 服部康介
副会長 佐久間 惇、黒田寿史
顧 問 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹
推薦理事 肥塚 泉
理 事 赤澤吉弘、岩武博也、上杉恵介、越智健太郎、春日井 滋、勝見直樹、
木下裕継、倉田久美、釧持 睦、小松崎 靖、佐々木祐幸、佐藤成樹、

新谷敏晴、スミス馨子、瀬尾 徹、田中泰彦、中村 学、晝間 清、
三上公志、南 定、宮部 聡、宮本康裕、谷口雄一郎、渡辺昭司
(50音順)

監 事 芋川英紀、岡田智幸
事務局長 齋藤善光

【協議事項】

7. 令和2年度四門会賞

望月文博：EQUILIBRIUM RESEARCH 誌 優秀論文賞受賞 “高齢めまい患者における杖使用の平衡機能への影響”

稲垣太朗：Impact Factor7 Acta Biomaterialia

誌論文掲載 “Transplantation of autologous oral mucosal epithelial cell sheets inhibits the development of acquired external auditory canal atresia in a rabbit model”

本年度四門会賞は上記2名が推薦され、理事会にて承認された。

8. 連絡先不明の会員について

会費請求やお知らせが宛先不明で返送されてくる会員を今後どのように扱うか。

「名簿に名は残すが会費請求しない代わりに同門会誌を送付しない。議決に必要な会員数に含まない。」という案で採決を行ったが、賛成反対ともに過半数に届かず継続審議となった。

9. 70歳以上の会員への会費返金について

平成17年以降70歳以上の会員は会費免除となっていたが、確認不足のため会費を頂いていた方がいらした。謝罪文送付と共に過払い金を返納した。

10. 新役員人事

深澤雅彦、小森 学 の2名を講師就任につき理事へ推薦され、理事会にて承認された。

11. 理事の定年による退任について

会則では65歳をもって定年退任となる。該当する理事は前もって事務局まで連絡を頂く。

12. 肥塚 泉教授 退任パーティーについて
令和4年3月19日(土) 18:00~(仮)
帝国ホテルにて開催予定

13. 令和3年度 四門会日時
日時: 令和3年12月5日(日)
場所: 京王プラザホテル

14. その他

① 勧誘費用に関して

毎年30万円を寄付していたが、2021年度は、理事会/総会での審議が間に合わず、勧誘費の支給はなし。但し、2021年度の理事会/総会で再度検討し、2022年度には30万円もしくは2年分の60万円の寄付を審議する予定である。

② 70歳以上の会費免除と返納に関して

会員各人の年齢は把握できていないため、会員からの自己申告にて会費免除を判断している。その為、70歳を超えている先生は事務局まで連絡をお願いしたい。70歳を超えて年会費を支払われた過払い分は返金をする。

令和1年10月～令和2年9月

令和1年度繰越金	¥2,154,504	
	収入	支出
年会費	¥995,000	
四門会誌第26号印刷費		¥217,056
四門会賞(1名)		¥50,000
四門会賞状代		¥990
四門会賞状印刷代		¥3,850
通信運搬費		¥39,378
勧誘費		¥300,000
総会当日会費	¥860,000	
京プラ会場費		¥924,253
秘書日当(秋山・鈴木)		¥20,000
新入医局員当日会費返金(1名分)		¥10,000
創立50周年事業寄付		¥500,000
振込み手数料		¥880
利息	¥14	
ゆうちょ銀行引き出し手数料		¥110
70歳以上会員への年会費返金		¥90,000
	¥1,855,014	¥2,156,517
次年度への繰越金	1,853,001	

監査報告

令和2年9月30日

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室
同門会(四門会)
会長 服部 康介 殿

茅川 英紀



監事

岡田 裕幸

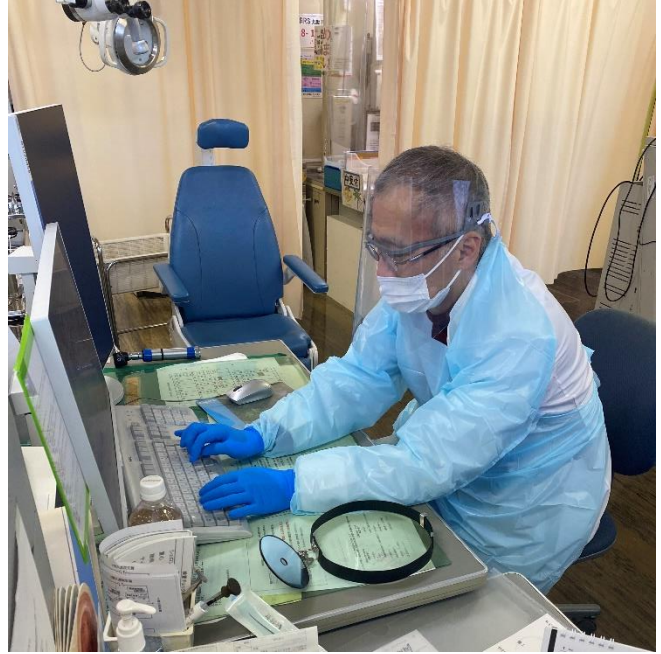
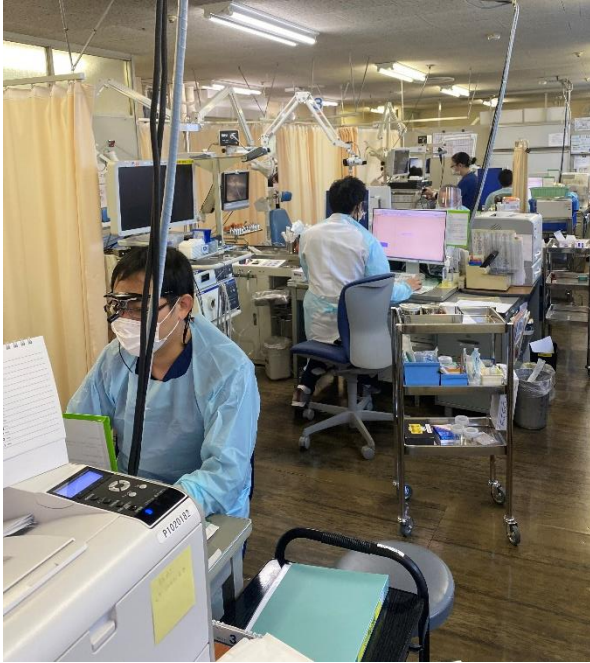


聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会(四門会) 令和元年度収支決算に関する
証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。
また、会務は適切に施行されていることを認めます。

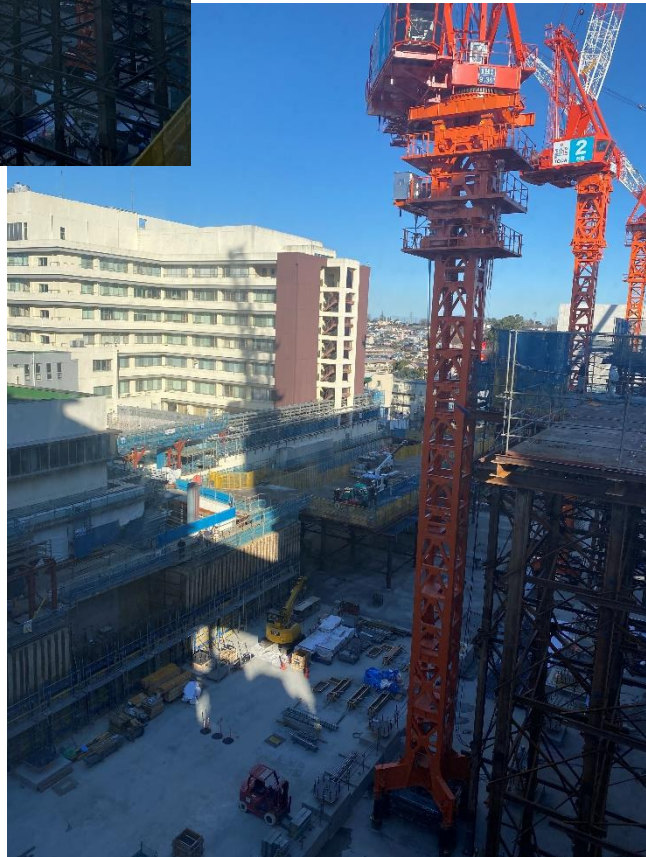
第 24 回 四門会総会 写真



外来風景写真



聖マリアンナ医科大学 新病院工事写真



聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。

- (2) 会費は前納とする。

第4章 役員

第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条 (役員の任期)

- (1) 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
- 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後も後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条 (役員の職務、権限)

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条 (役員の選任)

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
- 選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と顧問を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。また、教授退任後は顧問とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
- 監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会議

第12条 (総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条 (理事会)

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。

- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条（事務局）

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条（本会の経費）

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条（会計年度）

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条（会則の改正）

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条（その他）

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条（本会則の発効）

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

本会則は平成18年12月3日から発効する。

本会則は平成24年12月2日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
 - ・ 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
 - ・ その他の会員は年額 10,000 円
- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条 (役員を選出)

- (1) 役員の数、理事 15名以上、監事2名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。
- (6) 会長、副会長の任期は3年2期までとする、ただし再任は防げない。
- (7) 役員は65歳で定年とする。

第4条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第5条 (本細則の発効)

本細則は平成9年12月1日から発効する。

本細則は平成11年11月28日から発効する。

本細則は平成12年12月3日から発効する。

本細則は平成16年11月28日から発効する。

本細則は平成17年12月4日から発効する。

本細則は平成22年12月5日から発効する。

本細則は平成27年11月29日から発効する。

《編集後記》

昨年度の表紙は、2023年1月オープン予定の大学病院新入院棟、2024年10月オープン予定の大学病院新外来棟のイメージ完成図としましたが、今回は夜バージョンとしてみました。現在、明石会館は、完全に取り壊され、高台にとんでいた地面を大きく掘り起こし、工事が順調に行われております。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、診療のみならず、大学経営面等、問題が山積している状況です。ワクチン接種により早くウイルス感染が収束してくれることを願うばかりです。

予定では2023年度には新入院棟がオープンし、その後には新外来棟の改修、エントランス棟の建築が予定されております。病院オープンまで残り数年となっておりますが、聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科もさらなる発展出来るよう医局員一同精進していきたいと考えております。

今後共、先生方には益々のご協力およびご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。最後になりますが、皆様のご健康と益々のご発展を祈念しております。(齋藤善光)